



岡 津



令和3年度のキーワード
「つなぐ 自らの成長を自覚し、適切に行動できる岡津っ子」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okazu/>



学校だより 5月号
令和3年4月30日
横浜市立岡津小学校
校長 宮路 ますみ
TEL 811-4104
FAX 812-4586

こいのぼりに願いをこめて

校長 宮路 ますみ

新しい年度が始まり、約1ヶ月が経ちました。子どもたちは、新しい担任やクラスに徐々に慣れ、楽しく学校生活を送っています。今年の春は天候が不順で、暖かかったり肌寒かったりといった不安定な気候の日々が続いたせいか、体調を崩すお子さんも若干いらっしゃったようです。新しい環境になじむのに目に見えないストレスを感じ、疲労がたまっていることも予想されますので、ゴールデンウィーク中はぜひおうちでゆっくりと過ごして、日頃の疲れを癒してほしいと思います。

5月5日は「こどもの日」です。古くは「端午の節句」と言って、元々は男の子の成長を祝い、立身出世を祈願するための日だったと言われています。なぜ、5月5日にこいのぼりを飾るようになったのでしょうか。

元々庭に立てられていたのは、こいのぼりではなく「武者のぼり」と言われるものだったそうです。武者のぼりの起源は、戦国武将の「旗指物」にあるとされています。時代劇の戦いのシーンで、家紋のついた旗を掲げていたり、馬に乗った武将が鎧に旗を挿して走っていたりするのを見たことがあると思いますが、あの旗のことです。室町時代末期の武家社会では、端午の節句に虫干しを兼ねて旗指物を飾る風習があったそうです。それを庶民が真似て旗を飾ったことが始まりだと言われています。武家の旗指物は、家紋のみが描かれていますが、庶民が立てた武者のぼりには、金太郎や武者絵などが描かれていて、「子どもに幸せな人生を送ってほしい」という願いが込められていたそうです。立身出世のシンボルとして「鯉の滝登り」の図柄が描かれることがあり、その小旗が時代とともに変化し、現在のこいのぼりになったそうです。時代によってさまざまな形に変化しながらも、それを飾ることで「元気に育ってほしい。幸せになってほしい」と願いを込めて飾るこいのぼり。今日も元気よく大空を泳ぎ、子どもたちを見守っています。古くから受け継がれた日本の伝統をこれからも守っていかねばならないと感じています。